

# 平成27年度 教育懇談会

## ～ご質問・ご意見 要旨一覧～

平成27年11月、市内6会場で「教育懇談会」を開催しました。  
 今年度も多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。  
 教育委員が地域にお伺いし、市民の皆さんと輪になって座り、意見交換を行いました。  
 懇談会では、特定のテーマは設けずに、皆さんの教育に関する想いや、  
 日ごろ感じていることなど、幅広いご意見をお聴きすることができました。  
 その「ご質問・ご意見」の要旨を一覧にまとめましたので、ぜひご覧ください。



川西農業者研修センター(H27.11.4)



西帯広コミュニティセンター(H27.11.25)

開催日	開始時間	開催場所	参加者数
11月 4日(水)	19:00	川西農業者研修センター	22名
11月 9日(月)	19:00	大正農業者トレーニングセンター	21名
11月11日(水)	19:00	啓西小学校	25名
11月15日(日)	14:00	南コミュニティセンター	11名
11月19日(木)	19:00	東コミュニティセンター	13名
11月25日(水)	19:00	西帯広コミュニティセンター	28名
計			120名

★(お問い合わせ先)帯広市教育委員会 学校教育部 企画総務課 電話65-4201

## 平成27年度教育懇談会 ご質問・ご意見 要旨一覧

### 【学校・家庭・地域の連携に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
啓西	夏休みに「栄キッズ」という、学校を開放して、先生や地域の方、ボランティアが集まり2日間にわたり、子どもたちに勉強や遊びをさせる取組みがあり、初めて手伝いをした。その際、自分が小学生の時にお世話になった先生に会い、これまで自分ひとりで大人になった気がしていたのだが、家庭以外の場所で地域や先生たちに育てていただいていたのだと感じた。	お話しされていた通り、私たちは自分ひとりで育ってきたわけではない。時々、自分ひとりで育ったつもりで偉そうにしていると、どこから足を引っ張られ転ばされることも多々ある。だからなのか、歳を取ってくると、両親以外に恩師や母校や故郷が懐かしくなる。
南	地域と学校との連携をいかに具体化していくかということが大きな課題だと思う。「地域の子どもは地域が育てる」という合言葉があるが、具体的にどのようにやっていくかである。私の地域ではあまり大上段に構えてやると息切れしてしまうかもしれないということで、例えば、小中学校で挨拶運動をしているが、ではその時地域は何をするかを考え、地域でも皆で挨拶しよう、という運動をした。また、学校だよりは地域の人には配布されていないので、地域の連絡網を使用して回覧した。こういうことから始めることなのかと思う。学校・地域との連携というのは、今の子どもには非常に大事なのかと思う。だから、学校ももっと勇気をもって地域に悩みを言っていたきたいし、地域も学校に「こういうことがある」という話をして、情報共有しないと協力のしようもないので、情報共有が必要であると感じている。	学校と地域が様々な課題について情報を共有するという事は非常に重要だと思う。私は町内会長をしているが、学校から学校だよりを町内会で回覧してほしいと発行のたびに依頼がある。学校だよりを読むと挨拶や学校の課題などについて書いてあり、地域にも協力を求めるといったことも書いてある。そういったことが重要で、親として、地域住民として何かしないといけないということが少しずつ話題になってくる。地域の底力は本当に強いものだから、一旦動き出したらかなりのパワーになる。子どもへの挨拶、子どもの見守り活動など子どもとの接点をたくさん持っていただくような形になっていくのではないかとと思う。また、帯広市は幼保小中連携の取組みであるエリア・ファミリー構想を14エリアで推進するなど、地域連携のあるべき姿を模索しているところであるが、エリアぐるみでの課題解決ということも非常に重要だと思う。
南	町内会長をしていたことから、地域にできることは地域にどんどん振っていただきたいという話しをしたい。例えば、街路灯をつけることは、地域の仕事であるので「ここが暗いぞ」と地域に話しをしていただければと思うし、除雪でいえば、家の前の歩道を除雪できない家があれば、町内会であけたりしている。学校から町内にできることをもっと振っていただければ、町内でやれることをどんどんやって行きたいと思っている。	(ご意見のみ)
東	「地域社会総ぐるみで子どもを応援する取組み」とは、町内会との連携もあると思うがよくわからないので教えてほしい。	今、学校だけでは子どもたちを支えることが大変難しくなっている。ボランティアや専門家の講話など外からの力を借りて、各学校では様々な事業に取り組んでいる。市の予算は少ないが、各学校が工夫して学校を支援してくださる方とつながり、色々な事業を展開している。この仕組みの充実、また、体制を整えていくことができないか模索しているところである。
東	学校支援地域本部事業には、地域社会総ぐるみで子どもを支援するとなっている。今年、東小学校付近で不審者が出たというチラシを見たが、地域ぐるみであれば、散歩中の高齢者を活用するのも1つではないかと思う。立派な基本計画があり目標を掲げ、子どもたちのため学校や行政も一生懸命やっていると思うが、もっと中身がきらめくことを考えてるとよいと思う。何度か参加したが、中身が伴わず一歩も前進していないと感じた。	(ご意見のみ)
東	学校支援地域本部事業は、各学校で行われており、捉え方も各学校で様々である。この事業が本当に機能している学校がどれだけあるのか。今までのボランティアが活躍している学校や父兄が手伝ってくれる学校があるし、改めて地域本部事業というと、手伝いたくても何を手伝っていいかわからず空回りしている。もっと具体的な何かがあれば動きやすいと思う。	学校側が地域に求めていることが届いていないこともあるかもしれない。また、保護者側からこういうことができるかと学校に入って行き難いという声も聞く。活動には、地域の特性があつていいし、活動が盛んな地域は組織だって動いている。一方で、それが適わない地域やお話にあつたように何をしたいかわからないこともあるので、横の連携や情報共有ができるようなつながりを生む取組みもしている。私はこんなことができるということを学校に遠慮せず入っていただければ大変助かる。
西帯広	小学校では、教職員の顔写真が、廊下や正面玄関などに貼つてある。しかし、中学校では、それが見当たらない。中学校では何度かお話ししたことがあるが、なかなか実現されていない。地域と学校がつながるといえることをいえば、顔と名前を覚えるということは、大事なことでないかと思う。	学校で教職員の顔写真を見たとき、安心感が生まれた経験がある。その話しをすると、さっそく取組んでくれた学校もたくさんあった。中学校でも取組んでいる学校はあると思う。信頼していただくための工夫を検討してもいいのではないかとと思うので、校長会など機会を見つけて声を届けたいと思う。
西帯広	子どもたちが減少していく中で、子どもが、自由に出たり入ったりして、高齢者とゆっくりに関わることができる場を設けると、子どもたちも少しホッと出来たりして、少しは救われるのではないかと感じる。	高齢者と子どもたちの課外での交流は、これからも重要視していかなければならないことだと思う。できるだけたくさん持つことが大事だろうと思うし、各学校でも、様々な形で取組んでいると思う。高齢者と子どもたちの接点は、多く持つべきではないかと感じている。  例えばコミセンでの交流であるとか、夏休み冬休みの学校での行事だとか、色々なところで子ども達が地域の大人に見守っていただくことによって、互いに安心することができる。また、核家族化で、高齢者との交流がある家庭が少なくなってきたので、必要に感じているところである。私たちもその連携をどうやって、より多くの人たちに関わっていただけるか、検討を進めているところでもある。

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
啓西	登下校の見守りを行っているが、活動を通して、小学生、中学生、高校生が挨拶してくれるようになり、子どもたちから元気をもたらしている。交通ルールを守る子どもとお互いに褒めあいながら助け合っている。この活動は高齢者に生きがいを与えてくれたと思っている。また、地域では、中学校での世代間交流や学校の体育館を使用した高齢者の芸能発表なども行っている。高齢者に生きがいを与えてくれる学校、窓口となってくれる校長、教頭にお礼を言いたい。	自ら考えて行動することは、年代に関わらず必要ではないかと、お話を聞いて感じた。見守り活動を通して子どもたちとの接点はもちろんのこと、背中で交通規則を教え、実際に現場でどうすべきかを身を持って感じさせ、行動できるようになることが交通安全教育だと思う。世代間交流についても今は絶対に必要なことである。
大正	地域の高齢の方が、小中学生の面倒を安全パトロールなどで見てくれている。あいさつを大きな声でしてくださるので、子どもたちもそれに応えて挨拶しており、とても良い光景である。今後も、高齢者と子どもの関わり合いを含むような取組みを増やしていくのが理想だと思う。	高齢者も含めた地域の方には、学校の登下校を色々な形で見守っていただき感謝している。どんな暑い日でも、寒い日でも子どもに声をかけながら寄り添っていただいている。子どもたちは、そういった地域の方の姿を見ていると思う。 見守り活動は、市内全学校で行われている。みどりのおばさんが廃止になってから、保護者も交替で活動を行っているが、地域の高齢者の方は毎日行ってくれている。安全面だけではなく、例えば「元気がないのでは？」などと生活面、心の面も見守ってくださっている。保護者もとても感謝しているところである。
西帯広	子どもたちの登校時に見守り活動を11年間行っている。11年間も活動していると、小学1年生の時から見守っていた子どもが大きくなって、中学生になっても挨拶してくれる。高齢になり、だんだん辛くなってきたが、子どもたちに励まされてまだ続けたいと思っている。	各学校の子どもたちは挨拶を返してくれる。普通に挨拶を返してくれる子どもたちが育っているのだから、これからもぜひ見守っていただきたい。
啓西	小学校の登下校の見守り活動を行っている。子どもたちが1人で自宅から登下校できる仕組みを作りたいと考え、これまで、押しボタン式の信号機を3カ所設置したり、大きな木の枝払いなどをしてきた。また、毎年、私は子どもたちに2つのことを言っている。1つは、大きな声で挨拶すること。2つ目は、友達をたくさん作ろうということである。学校も地域も社会も、子どもたちは皆で育てるということを全市民に知らせていくことだと思う。	長年、子どもたちの安心安全のために見守り活動を行っていただき感謝している。子どもたちへの声かけや通学路の環境整備にも気配りをしていることなど、安心安全を確保する努力は、市も学校も気をつけなければならない部分だと思う。防災では、自助、互助、共助とよく言われるが、いただいたお話は共助の部分が具体的に表れていると思う。学校と地域、保護者との信頼関係がますます高まっていくと思うので、全市民的に進めていくべきだと思う。
啓西	学校図書ボランティアとして活動しており、子どもといつも楽しく関わることができるように色々考えている。最近では手先が不器用な子どもが多く、はさみを上手く使えないことがあるが、一つ一つ子どもたちと楽しみながら学んでいきたいと思っている。	学校への協力ということで、様々なボランティアの方が学校に出入りしていただき、子どもや教員との関わりを密にしていることは素晴らしいことだと思う。教員ではできないような民間のアイデアや力を取り入れている場面を各学校で数多く見かける。また、生涯学習部が行う各種教室・講座などで学んだことを学校に出向き活かしているボランティアもあり、子どものために協力していただいていることは大変助かっており、感謝している。
啓西	学校図書ボランティアをしている。色々な取組みをされているということで勉強になった。	お忙しい中、本の修理や読み聞かせの実施など、子どもたちのために尽くしていただいていることに改めてお礼申し上げる。
東	小学校で読み聞かせボランティアをしており、中学校でも読み聞かせをと話したところ、いらないと断られた。地域の力を借りることで、子どもたちの成長につながることもあると思うので、地域の力を借りる開けた学校であればいいと思う。ハード面よりも、ソフト面の充実をすることで子どもたちは健やかに育つと思う。ぜひ、学校、教育委員会は地域の方の知恵とパワーを受け入れてもらえたらと思う。	読み聞かせの効果は抜群だと思う。小・中学生、高校生でもそうなのではないかと思う。読み聞かせる側に立つのもいい、特に中学生くらいの段々自意識が出てくる時期であれば、自分の好きな絵本や思いがあるものに対する取組みがでてくると思う。これからは、学校・家庭・地域の3つがどう関わっていくかが、この地域の未来を決めるのだと思う。何らかの形で協力できて、初めてこの時代に即応できる子どもたちに成長する場面を作れると思う。 読み聞かせは大事なことだと思うのでやっていただきたいと思う。学校だけでは子どもの教育はできないので、地域の力を借りることが必要である。学校としても地域の力をどれくらい借りられるのかわからない面もあるので、ぜひアピールしていただければと思う。学校も何かの事情で断ったのだと思うので、もし、断られてもめげずに取組んでいただければと思う。
西帯広	長くPTA活動をしていたが、PTA活動は後々の自分の生き方の勉強になったと思う。PTA活動の支援を今後もよろしくお願ひしたい。	PTAに助けていただくことは多くある。学校、教育委員会は、家庭のところまでなかなか届かないので、保護者と一緒に行っていかねばならないことが多い。これからもPTAと一緒に協力しながらやっていきたいと思っている。
西帯広	子どもたちとのコミュニケーションを図るということで、工作をしたり、ゲームをしたり、夏と冬の年2回、世代間交流を行っている。しかし、予算が少ない。もし、教育委員会で予算措置してもらえば、もっと色々なことができると思っているが、現実的にどうか。	予算という意味では厳しいが、皆で知恵を出しながら将来の子どもたちのために、一緒にご協力いただければと思っている。学校を支えていただくと同時に、学校を1つの舞台に、皆さんの前向きな姿勢につながっていけるように、仕組みづくりを検討している。

【幼保小中の連携に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
西帯広	幼保小中の連携体制の強化について、具体的にどんなことを狙っているのかお聞きしたい。	幼保小中の連携は、帯広の子どもたちが育って行くのをできるだけ地域の人たちと一緒に、しかもある程度の区画の中で、しっかりと見守っていこうと進めている。例えば、幼稚園と保育所の情報を小学校に持っていき、互いに相談したり、あるいは中学校進学の際に、小学校の先生が様々な情報を伝えたり、そういった縦をつないでいく。同時に、それぞれの地域性を生かしながら子どもたちを育てることによって、学びをきちっと支えている。市内14の中学校を中心に近くの小学校や幼稚園、保育所の先生が集まり、学び、場合によっては行事も一緒にやっていく。そういうことで、事業を進めている。
啓西	エリア・ファミリー構想に児童保育センターも加わり小学校や保育所などと話し合いが出来ている。それを機会に、保育所での子どもの成育がわかったり、児童の心配なことについて小学校から説明を受けたり、一緒に保護者とも相談にのってもらったりしている。エリア・ファミリー構想の以前は、小学校には行きにくかったが、今では参観日や学芸会、卒業式、入学式などに参加させていただいており、保護者は児童保育センターが学校の話も聞いてくれていると安心して感じている。色々な関わりの橋掛かりを作ってください、何かあったときにすぐ相談できるところはありがたいと思っている。	子どもたちは、同じエリアで幼稚園・保育所から小学校へと育っていくので、子どもの居場所づくりや児童保育センターなど、色々な方々の情報を交換しながら、子どもたちの育ちを支えていただいていると思う。学校は決して敷居は高くないので遠慮せず声をかけていただければ、またつながっていくと思う。
東	この春、小学校に入学した子どもがいる。事情のある子どもで区域が違う学校へ行った。その際、住んでいる区域の小学校と実際に行く予定の小学校が連携してくれ、入学する学校の先生が幼稚園に行き話を聞き、家にも来てくれて大変スムーズにいった。まさしく幼保小連携だと思った。教育委員会の方も柔軟な対応でありがたかった。	エリア・ファミリー構想による幼保小中連携がお役に立てたということで、大変うれしく聞かせてもらった。

【学校運営に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
大正	学校の先生の指導力の向上を願っている。本当に良く教えてくださる先生もいるが、これは困ったと思う先生もいる。規模の小さい中学校では、1つの教科について3年間とも同じ先生が教えることもありえ、指導力が低い先生だと大変なことになってしまう。そのため、小規模の学校には特に指導力の高い先生を配置して欲しい。	先生は、教師としての情熱だけではなく、スキルもしっかり持ち、夢ある子どもに1時間、1時間、教えることをきちっと教えていくということを積み重ねていくことが大切だと思っている。仮に色々な先生がいたとしても、先生一人ひとりの指導力の向上に取り組んでいきたいと思っている。
啓西	今の教育現場では先生がかなり忙しいと聞いている。休み時間に子どもと一緒に遊ぶ時間もないとのこと。気の毒だと思う。	学校の先生は確かに忙しい。事務的な書類作成など、本来、指導の準備・向上等に充てるべき時間が割かれることに大きな問題がある。子どもに目が行かなくなってしまうと本末転倒になりかねない。全国的な問題ではあるので改善できればと思う。
東	学校の先生は何時から何時まで勤務なのか、朝早くから夜遅くまでいる先生が多い、時間外手当を出しているなら良いが、実態はどうなのか。	教員に時間外勤務手当はない。朝早くから夜遅くまで激務であることが実態である。先生が健康でないという意味で子どもたちに教育することは難しいと思っているので、勤務が負担にならないように取組まなければならないと思っている。
西帯広	もう少し先生方に余裕を持たせてあげられないのか。先生の分野、仕事量が重いのではないかと思う。余裕を持たす中での配置をしてあげれば、少し楽にさらに子ども達に接していける面があるのではないかと思う。	本当に先生方は忙しいが、学校の管理職も含めて、先生方は工夫しながら努力をしている。今、いただいたお話のように、お気遣いいただいていることを聞かせていただくだけでも、先生方には、励みになると思う。 先生の加配はなかなか叶わず、本当に忙しいのが現実である。教育委員会でも、なるべく先生達に負担がかからないように、そして子どもたちと向き合う時間をもう少し取れればということで、ICT化も含めて取組んでいるが、多忙化というのはなかなか解消できていないことが大きな課題の1つである。
西帯広	学校の先生には、一生懸命にやってくれてありがたいという思いがたくさんある。しかし、仕事が多く大変なこともあり、精神的にまいってしまったり、辛いという話を耳にすることがある。それだけ、先生の職場環境が非常に苦しい状況になっているように思う。そのため、学校教育の主たる先生を、地域や保護者が支えていけるような仕組みが必要ではないかと思う。	先生は、子どもたちと向き合ってる時間だけではなくて、保護者の対応や授業の準備など、本当に忙しいというのが実態である。困ったことや何かあった時には、一人の先生が抱えることのないように学校組織で対応していこうと、学校にお願いしている。また、今も様々なことで地域に助けられているが、学校は、どの部分で地域の協力をお願いするかという情報発信と、地域の方々が、自分はこういうことができるが協力できることはあるか、と入っていきやすい雰囲気を持ち合わせていかなくてはいけないと思っている。

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
東	帯広市は体育専門の教員をどれくらい配置しているのか。複数の学校をかけもちしながら体育専門に指導している方がいると聞く。他の町村では、総合型地域スポーツの方を活用し体力づくりをしているとも聞く。帯広として特に体力づくりとしてやっていることがあれば教えてほしい。	子どもたちの体づくりの話は、体幹のしっかりした体に育てなければならぬと思っている。中学校は体育の先生がいるが、小学校は担任の先生が授業を行うので、体育の専科は難しいが、できるだけやっていきたいと考えている。
大正	司書教諭、学校司書の配置を帯広市でも検討していただきたい。	12学級以上の学校には、司書教諭を配置することになっており、配置しているが、学校司書などの配置となるとまだまだ足りていないところがある。そういった中で、学校図書ボランティアの協力を得ながら、子どもたちに学校図書館の魅力を感じてもらえることができるか、どうやって学習につなげていくかなどの研究・情報収集に取り組んでいる。
啓西	現在、小中学校での図書貸出し冊数は非常に伸びているので、読書の推進をぜひやってほしい。学校司書の配置について、学校図書館法の改正により努力義務になった。配置については、都市によっては各学校に配置しているところもあるが、帯広市において各学校に配置することが難しければ、食育指導専門員のように学校教育指導室に配置し、各学校を巡回し、読書の推進や図書の選定をする方法はどうだろうか。また、市図書館の蔵書を増やし、各学校へ巡回する蔵書を充実させてはどうだろうか。	学校司書については、学校図書館法の改正により、配置が努力義務とされた。人という意味では、学校図書館の運営は、司書教諭だけでは手が回らないのが実態で、学校図書ボランティアの力を借りながら、子どもたちが学習だけではなく、学校図書館に楽しく足が向くような仕組みづくりを考えなければならぬと思っている。人的配置となると教育予算全体の中で検討しなければならず、着手できない。また、学校図書館は市図書館と連携し、市図書館司書から専門的なアドバイスなどを受ける「図書館クリニック」、図書を学校に届ける「ぶっくーる便」を実施している。
東	スクールソーシャルワーカーは、曜日、時間が決まっていて、予約を取らなくては行けなく、なかなか相談することができない。学校ごとのソーシャルワーカーの他に、全市に1人でもいいので、働いている親の悩みが聞ける時間帯、例えば土日や夜などに対応できる人の配置も考えてほしい。	スクールソーシャルワーカーは、関係機関と連携し解決に向けて取り組んでいる。遠慮なく学校や教育委員会に相談していただき、できる限りの体制を整え、関係機関と一緒に取り組んでいく。解決には長時間かかるが、こういった声があることも踏まえて取り組んでいきたい。
啓西	今年3月、政府の教育再生実行会議において、全ての学校でコミュニティ・スクール化を図るとの話が出た。釧路市では、既にいくつかの学校で実施しており、今年も増えている。十勝管内でも始めた町がある。帯広市教育委員会では、どのような考えを持っているのかお聞きしたい。	コミュニティ・スクールについて、国は推進しているが、まだ、道内では1割に満たない状況である。これは、自治体規模や学校数など、そこまでのステップや地域性が多分にあるからだと思う。コミュニティ・スクールは、学校評議員とはまた違った責任、権限もある。どちらにも共通していることは、学校に地域の声や意見を入れてもらい、校長たちが子どもたちに伝えていきたい教育や学校経営について、教育部門からではない声を大切にしていくことである。帯広市では、コミュニティ・スクールについて研究していかなければならない段階であるが、これからは、学校外からの声をしっかり入れ、学校経営も含め、どうすれば、子どもたちの学びと育ちを支えていけるのかを常に考え、大事にしていきたいと考えている。
東	学校の対応に対する不満について話をさせていただく。小学生が学校のトイレで大きい方をするといじめに合うと言っていたので、校長に話しをしたところ、職員会議で対応しますとの返答であった。ありがとうなどの言葉があっても良かったと思う。今の学校では、保護者であれば丁寧な対応をするのに、ただの近隣住民には、あなたには関係ないでしょという対応をする先生もいる。ただ、素晴らしい対応してくれた学校もある。建物に雪玉をぶつけた中学生に注意をしたところ、「うるさい」といわれ、それを学校側に伝えると、即対応してくれ、次の日に生徒と謝りに来てくれた。	(ご意見のみ)
川西	運動会開催を知らせる花火の打ち上げについて、帯広市でも騒音問題で取りやめた学校が7,8校あったそうである。知人によると、地域から騒音について話があり、教育委員会から穏便に済ませようという話が学校にあったということである。	花火については、学校や教育委員会に色々な声が届く。動物が驚くとか、うるさいから止めて欲しいなどである。どう対処するか学校で悩みながら解決していくことになる。花火をあげる学校、あげない学校、ばらばらな対応ではあるが、地域の声に丁寧な対応が求められている。 なお、花火は運動会を行うことの合図であるが、各家庭への連絡網が非常に発達して、天候によって開催するかどうかかわからない時も、瞬時に連絡できるようになっている。

### 【教育内容に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
西帯広	自転車に乗った子どもたちと、細い道ですれ違った時、子どもたちが自転車から降りて「こんにちは」と挨拶してくれた。それが、微笑ましいというか、本来なら大人から声をかけるべきだったのでないかと、恥ずかしいような気持ちになった。	子どもたちが挨拶してくれたのは、きっと学校でも、挨拶をすることを伝え、家庭の中でも子どもたちに教えていることが、地域の中でも自然と出てくることなのだと思う。むしろ、もっと大人も一生懸命声をかけてあげた方がいいのではないかと考えており、みなさんだけではなく、みなさんが率先して声をかけていただくことで、他の方も挨拶していただけるのではないかと考えている。

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
西帯広	<p>二中で子どもたちと接する時、対面ですれ違った際の挨拶は当たり前だと思うが、追い越す際にも挨拶をしてくれる。めんこいなと思っている。小学校の交通指導や中学校での朝読書を長く続けることも良いことだと思っている。</p>	<p>顔の見える地域というのは、大人にとっても、子どもにとっても、非常に安心感もあるだろうし、相互に信頼し合えることになると思う。そこに声かけが入るとか、あるいは、共通した態度を取れるとか、そのようなことから人間関係が深まっていくのだと思う。挨拶というのは、対人関係を確立する為の入口である。各学校では、非常に挨拶に関わる意義や、どんな場面でどんな挨拶が適当かということについて、指導をしていると思う。</p>
啓西	<p>帯広市歌を子どもたちに教えるべきだと思う。市歌を歌えることが連帯感を生むと思う。</p>	<p>市歌を教えることについては、どの授業で指導するのかを含め時間の確保が必要であるため、学校と相談しながら、決して押し付けにならないように、どういった形で子どもたちに知ってもらえるか検討していきたいと思う。</p>
啓西	<p>教員は、子どもたちのことを良く見て、この子はすごいと気がつくことが大事。ただし、しっかり見なければ気が付くのは大変である。本気になって子どもたちがやる気になったら、すごいことができる。そのやる気を引き出す、その気にさせることが教育であると思う。</p>	<p>子どもたちは、どこかで躓いても何も問題ないと思う。小さい時には目立たなくても、頭が良くないと言われていても何の問題もないのである。どこかで見出せるものが必ずあるはずである。今、お話いただいたように、大人がどこかで見つけてやれば良い、そこが一番のポイントだと思う。</p>
南	<p>子どもたちが本を読まなくなったと言われているが、図書館のアンケート結果によると、帯広市の小学生のうち1ヶ月で本を1冊も読まないという児童の割合は低く、ほとんどの児童は本に親しんでいるといえる。おそらく、日頃から学校や家庭でも、本に親しむ機会を作っているからだと思う。これからも、各学校には、子どもたちが良い本に触れる機会をたくさん作っていただきたいし、市図書館にも要望があれば言っていただき、協力しあっていきたいと思う。</p>	<p>帯広の小学生が本に親しんでいる要因は様々あると思うが、一つに学校図書館が非常に充実していることがあると思う。入りやすく、明るくて、先生や学校図書ボランティアが子どもの目線でPRしている。子どもたちが学校図書館へ入りたいという気持ちに自然となっていくような状況を作っていると思う。また、各教室では朝読書が定期的に行われ読書冊数も相当増えているのではないかと思う。その他、ボランティアによる読み聞かせが行われ、そこから発展して、高学年児童が新入児童への読み聞かせを行うという動きも出てきている。学校外では、市図書館による移動図書館やコミセンの図書館分室など、地域に図書室があることが非常に重要なことだと思う。</p>
啓西	<p>小学2年生は掛け算の九九を学ぶが、栄小学校では、校長先生による試験があると聞いた。校長室で校長先生の前で暗唱するのだと思うが、忙しい中、校長先生がそのような取組みをしていることに、うれしい気持ちになった。大いに宣伝してはどうかと思いをさせていただきました。</p>	<p>(ご意見のみ)</p>
東	<p>帯広市は体力づくりに力を入れていないと感じる。子どもたちがテレビやゲームに偏らず、外で遊べるような、体を動かす環境づくりに力を入れてほしい。</p>	<p>(ご意見のみ)</p>
西帯広	<p>小中学校において、普段の教育の場では、ラジオ体操を教えないと聞いている。教育を支える人材の育成ということで、帯広ではスピードスケート指導者講習会をやっているようなので、ラジオ体操でもやっていただけたらと思う。</p>	<p>学校でも全くやっていないということではないと思う。さまざまな体育活動の前段にやっている先生もいるし、全校としてやるところもあると思う。体育の時間の準備運動が前はラジオ体操だったのが、準備体操として、その1時間の体育で、どの体、筋肉を使うのかというところにポイントを置いたストレッチ法を行い、その部分だけをまずは意識させて怪我のないようにしていることもある。ラジオ体操も3分間やると、すぐ汗も出るし、否定をしている学校はないと思う。やっける学校はたくさんあると思うので、安心していただいた方が良いと思う。</p>
西帯広	<p>札幌の知人の話によると、子どもたちは、急須でお茶を入れることを知らないの、家庭科の時間でお茶の入れ方を教えられるそうである。帯広の教育現場ではどうなのか伺いたい。</p>	<p>物事は継承されないし失っていくものがたくさんある。今の話は、お茶の話だったが、それはきっと心の問題も含まれているのだと思う。私たちは、急須でお茶を入れるということも含めた心のことを伝えていく必要があるという思いでお聞きした。</p>
川西	<p>「道徳」が教科になると、先生が評価をすることになると思うが、全市のまたは学校のすり合わせがあるのか分からない。いじめで自殺する子がニュースででているが、いじめている人が一番悪いし、先生がわからなかったことも悪いが、アンケートでいじめを見たという子どもがいたとしたなら、なぜ見て見ぬふりをしていたのかということはどうにかしていかないといいけない。そういう方面に主眼をおいて、道徳教育をやっていくなどテーマを持って全市的に取り組んでいるのか。市として取り組むこと、方向性があるのかどうか伺いたい。</p>	<p>「道徳」は、国語などのように教科化されていくが、評価をどうするかは未だはっきりとされていないと受け止めており、まだまだ国での議論が続いていくと思う。 帯広教育研究所では、道徳教育について先生の参考になるような題材を示しながら、資料を学校に配布している。 いじめについては、先生たちがアンテナを高くして子どもたちの顔の表情や仕草、何かサインを出していないかキャッチするスキルアップが求められていると思う。どの学校でもいじめは起きるということで、全市的に小中学校すべての学校で取り組んでいる。また、子どもたち自身が児童会、生徒会の会長を中心に「いじめ非行防止サミット」などに取り組んでいる。 心配しているのは、目に見えないところでのいじめ、叫び声を上げられない子どもたちがいるかもしれないことである。それをいかに感じて未然に防げるかが私たちに問われていると思っている。ぜひ、家庭でも何か子どもにサインが見えたときには、遠慮なく学校に相談してほしいと思う。</p>

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
大正	大正小学校では、学校の農園で、かぼちゃやメークインを栽培している。メークイン祭りでは、子どもたちで収穫して販売するというのをやらせてもらった。また、メークイン祭り以外でも、神社のお祭りなど、非常に地域と密接につながっており素晴らしい学校だと思う。	児童が実際に作物を作り、食べ、そして販売も行ったという取組みは、教育的に大変良いことだと思う。また、食というものは、自分で作ったものは、本当のおいしさもよくわかるし、安全だということも確認できるので、これからも続けていっていただきたいと思う。
啓西	子どもたちには、色々な体験学習をさせてあげたいと思っている。常に色々な仕掛けを考えていただいて、続けていただければと思う。保護者も参加しやすいものにしていただければ、普段子どもと接する場が少ない人にも良いと思う。学校も家庭も元気であれば、地域も相乗効果で活性化していくと思う。	帯広では体験型学習をやっており、一番多いのは「農業体験」である。帯広は農業のまちと言っても中心部の子どもはほとんどが農業のことを知らない都会型の子どもである。そのため、農業体験は重要だと思っている。 帯広で、どんどん体験型学習を増やしていくことが、子どもたちの好奇心を満足させる大きなポイントになると思う。
東	子供が通っている学校から、今年学力テストで高い点数を取ったという案内があった。他の保護者からはテストの結果が高いからといって手放しでは喜べないという意見があった。働き方、生き方の教育が弱いと母親たちは感じていると思う。学力テストの結果の分析と、その向こうにある働き方、生き方についての教育の取組みを強めてほしい。	小さい時から、将来の生き方を模索していかなければならないと思う。帯広市では、様々な企業、職業の方たちの協力を得ながら職業体験できるキッズタウンという取組みをしている。少しでもキャリア教育をしていかなければ、学力は良いけれど、自分の意志を反映できない大人になってしまう。学力だけではなく、知・徳・体のバランスが整うことで、人として生きていけるだろうと思う。
東	教育の中に十勝とアイヌのつながりの教育が薄いと思う。文化だけではなく、アイヌの方々が背負ってきた歴史を教えることによって、人権、いじめ、今、子どもたちが抱える問題の解決につながる事が非常に多いし、十勝らしいテーマなので、力を入れてほしい。	北海道はアイヌの人たちの文化から発祥しており、その生活、歴史を子どもたちに伝えていくことは大事だと考えている。各学年に応じ、アイヌ文化の歴史について、しっかり学ぶ時間をとっている。学校からの要望により百年記念館の学芸員や今年度から配置したアイヌ文化推進員が授業内で学校訪問を行っている。また、先生たちが学ぶ機会も作っている。しっかりと伝えることが大切という認識で継続して取り組んでいる。

### 【いじめ・不登校に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
川西	小学生の親戚の話だが、クラスに「貧乏だ」と言われいじめを受けていた児童がおり、守ったところ、いじめた子どもの親が学校に来て「貧乏人に貧乏と言った何が悪いのか」と言ったそうである。もし、子どもに「どこまでがお金持ちなのか。貧乏人は教育を受ける資格がないのか」という質問をされたら、どのようにお答えするか、ご意見を伺いたい。	貧富の差を教育の現場に持ち込むことは基本的にあってはいけないことである。貧富の差や障害の有無で差別をするということがあれば、先生も教育委員会もそのままにすることは基本的にはない。差別をするような子どもがいれば、その子にきちんと伝えることが教育であり、放っておかず基本的なことを伝え続けることが重要だと思っている。小さなことを積み上げていかなければ子どもの世界もおかしなことになっていく。小さなこともきちんと捉えて、大人である我々も対応していきたいと思う。  貧乏人であるとか、金持ちであるとかではなく、心の豊かさが何より一番だと思う。子どもは大人の鏡のようなものであるので、お話をあった内容は、子どもの問題ではなく、大人の問題である。良くないことは、良くないと大人が言い続けるしかなく、大人の責任だと思う。
大正	社会問題となっている「いじめ」について、もっともっと子どもたちと保護者と先生が協力しあいながら、帯広、十勝、北海道から「いじめ」がなくなるようにしていきたいと思っている。	いじめというのは、大人、本人、友達、それぞれで考え方や感じ方が違う。いじめというのは、本人が感じていること、ここに中心を置かなければいけないかと思っている。いじめを受けている本人は、なかなか表にサインを出さないということが起きている。このことを私たちは承知していないといけないと思う。何もない、と言う子どもの状態が本当に何もないのだろうか、という風に一番近い親や教師が見る必要がある。悪ふざけも含めて、いじめが起る可能性はどこにでもある。いじめは失くすことができない。そこをどのように我々が受け止めていくのかということを考えていきたいと思う。
東	先般、札幌でいじめが原因で転校したという話があったが、帯広の現状はどうか。	いじめは帯広でもゼロではない。程度の差こそあれ、子どもがいじめられていると感じれば、いじめとして捉えている。いじめがゼロと考えることは危険だと思っている。いつでも、どの学校でも起き得るという危機感を学校の先生と常に共有しながら、子どもたちに声をかけ、見守っている。いじめがあったときには、子どもたち、また、保護者が学校に言いやすい雰囲気を作らないといけないし、起きたときにはしっかりと学校現場で取り組んでいるので、幸いなことに帯広では大事には至っていない。

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
南	<p>「いじめ問題」は、帯広市では無いような状態だと思うが、今無いから良いといっても、これから先に無いとは限らないと思う。今の子どもたちは、私が子どもであった時代(40年くらい前)と比べて道徳心が無くなっていると思う。先生の目が届いている間は、良い子なのだが、離れた途端に、行儀が悪くなる。また、スポーツ少年団では、マナーなどより、勝利が優先のようにしており、競争心ばかりになってしまっている。高校受験、大学受験と続き、競争心ばかり教えていって道徳心がない。私が子どもの頃は、子供会があり、6年生が1年生の面倒を見るなど上の者が下の者の面倒を見ていたが、今の子どもたちを見ていると、それがなく、強いものが弱いものをいじめるとい社会が成り立っている。それが、いじめにも発展しているのではないかと思う。</p>	<p>道徳の時間は、もちろん今でもある。学年に応じて、年齢に応じて、いじめ問題だけではなく、様々なことを教材に使いながら、子どもたちに考えさせ、意見などを発表させたりして、道徳心を養っている。いじめは、誰にでも、いつでも起こりうることなので、教育委員会では、非常に危機感を持って各学校と取組んでおり、先生達もしっかりと子どもたちと向き合っていくなど、かなり力を入れている。児童会・生徒会では、自らいじめは良くないという共通意識を持って、どうやったら無くすことができるのだろうかなどについて、「市内小中学生いじめ・非行防止合同サミット」を開き話し合うなど、子どもたちも頑張っている。</p> <p>本人がいじめられたという気持ちを持っていることがいじめである。いじめを受けていても本人が親や先生に言えないということがあと思うが、親や先生は、子どもの気持ちを訴える場所を作ってあげなくてはならないと思う。そうした上で、親は本人、先生、いじめた人などから、よく話を聞いて、そこから解決の糸口を見つけていくことが1番だと思う。また、子ども同士でも、いじめはダメという認識があるので、子ども同士の中でも解決できるものも出てきているかと思う。</p> <p>ただし、ひどいいじめによっては、自殺に向かうこともあり得ないことではなく、防がなくてはならないので、親、先生、地域の方にもお願いし、子どもを守る環境を作ってあげることが大切である。そのためには、まず親が常に子どもの状態を見て、どんなことがあったのか聞いてあげることである。</p> <p>いじめは、人の痛みをわからない状況下によって発生する。昔は子ども同士の社会で、痛みの加減を教えていた。そういう社会がだんだん崩れてきた。今は学校の中で意識的に縦社会を作って上下関係の中で、人の痛みをわからせようという働きもある。また、授業の中では、グループ活動などで意見交換をして、自分で考えて、自分で行動して、学ぼうとする教育方法で、相手の考えを知り、自分の考えを伝えるという、本音で伝え合うという状況を作り上げている。</p>
大正	<p>ニュース等でいじめの他、家庭内の虐待で子どもが辛い思いをしていると報道されているが、帯広市でも、経済的なこと以外で、家庭の事情で本来であれば就学する年齢に達しているのに就学できない子どもはいるのだろうか。</p>	<p>現状、本市にはそういった児童はいないと認識している。</p>

### 【特別支援教育に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
川西	<p>帯広市では、特別支援教育を推進するにあたって、「個別の教育支援計画」の作成状況はどのくらい進んでいるのか、あるいは作成について100%ではないかもしれないが、そうなるようにビジョンや方針をもって推進しているのかどうか確認したい。</p>	<p>「個別の教育支援計画」は、学校の指導だけではなく、幼児期から社会人までの大きな流れを見ながら作成をしていく部分がある。支援の中身の話しをするためには、学校の先生だけではなく、保護者と一緒に具体的に支援計画を立てていく。作成は義務ではないが、各学校では子どもの状況によって、特別支援コーディネーターを中心に、保護者と話しをしながら、北海道教育委員会十勝教育局の「かちっと」に基づき教育支援計画を作成している。ただし、個々の子どもの状況に応じて、作られている子と作られていない子がいる。</p>
川西	<p>「個別の教育支援計画」については、もっと推進すべきであるし、同時に保護者に周知するべきである。小学校から中学校に進学する時に、引継ぎがきちんとされるためにも、「個別の教育支援計画」を作成してほしい。特別支援教育において、これを作成しないことはあり得ないと思う。</p>	<p>「個別の教育支援計画」だけではなく、特別支援教育そのものについて、今年から見直しの検討をスタートした。「かちっと」の利活用も含め、子どもの成長は義務教育だけではなく、社会に出たときに、子どもの支援の状況が見えるようにつないでいかなければならないと思っており、そういった構築に向けて走り出したところ。</p>
西帯広	<p>25年程前の話しになるが、適正就学指導委員会の委員をしていた時、委員会の中で、ある子どもについて、「このままこの学校に在籍させておくといじめの対象になるかもしれない。だから、帯広養護学校の方が良いのではないか」と発言する人が毎年1人くらいいた。子どもの実態から考えて、適正な就学指導をするのが、この委員会の仕事であって、もしかしたら、いじめが発生するかもしれないから、未然に帯広養護学校に移しておいた方が問題がおきなくて良いのではないのかみたいな考え方は、問題のすり替えでないかと思う。今でもそんなことがあるのかどうかと、ちょっと心配である。</p>	<p>昔は、普通の教育を受けることが困難な方を安易に分けてしまう傾向があった。しかし、今、帯広市は、学校の中に随分、特別支援学級を作っている。分けない教育を極力しようという努力を積み重ねてきたのだと思っている。一昨年、障害者を分けずに総合的に支援する法律、障害者総合支援法ができた。社会に溶け込む、一緒に暮らしていくことを理念にした法律である。教育の分野も随分変わってきていると思う。これから、まだ変わっていく最中であるため、教育委員会や学校現場、あるいは社会も変わっていくと思う。</p>

【教育環境に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
川西	来年度、再来年度、川西小の新1年生は多くなる予定であり、教室が足りない状況になってしまう。新入生のために快適な教育環境として、校内のスペースの確保をお願いする。	川西小学校区では、清流地区で子どもが非常に増えている。今後、1学年でどのくらいの人数になっていくのか、複数の学級になるのか、推計、分析していく。学童との協議も含め、子どもたちの教育環境が少しでも良くなるよう、できる限りの努力をしていく。
川西	広野小学校の掲揚塔が古く、強い風が吹くと危険である。点検はもちろんだが、教育委員会にも見ていただきたい。	子どもに危険があつてからでは遅いので、緊急度合いなどを見せていただいて、危険のないよう対策していかなければならないと思っている。
大正	七中は50周年を迎えたが、道路などに不具合があるなど、改善できるものは改善して欲しい。	様々なところから様々な要求が上がってきているので、できる限り、優先度合いを鑑み、対応できる場所は対応していく。
大正	大正小学校前のロータリーについてだが、毎年、環境整備でアスファルトを入れ補修しているのだが、すぐに穴ぼこになってしまい、段差が生じている。車や自転車だけではなく、子どもたちが歩く上でも危ない。対応をお願いしたい。	教育委員会の職員も足を運び現地を確認している。抜本的に解決するのは相当に難しいのだが、できる限り少しでも回復していきたいと思っている。
川西	学校プールについて、老朽化のため壊してしまうという話を聞いた。何かに使うことができないだろうか。例えば、特別支援学級の子どもたちや思い出づくりとして、花壇などに使えないものか。壊すためには、莫大な費用がかかる。子どもたちに使えることがあれば、先生や子どもたちの輪が広がると思う。	各学校のプールは、経年劣化で衛生状況が良くない、天候や気温に左右されるということなどで、現在は、光南小、豊成小、啓西小、スインピアの4か所の拠点プールを使用している。スクールバスを利用しながら、天候に左右されず衛生管理がしっかりしている施設で、長期間水泳に親しんでもらいたいことと、夜は市民に開放し、生涯学習で健康づくりにもトライしていただきたいという思いで、学校教育と生涯学習の両方の面から拠点プールはできている。また、順次取り壊しを行っているプールの活用に関してご提案いただいたが、教育委員会でも様々考えてきたが、プールの底の深さや水の管理、劣化したコンクリートなど、危険があり、そのまま残しておくわけにはいかず、予算上、一度に対象となる学校のプールを取り壊すことはできないが、順次行っているところである。取り壊した後の敷地については、学校菜園、保護者の駐車場など各学校で使い方を検討しながら、進めていきたい。
大正	学校トイレの洋式化について、大正・愛国地区の学校の更新のスケジュールが決まっているのか伺いたい。	和式の多い学校から順次更新していくため、この学校についていつ更新する、とはいえない。予算の状況によって変わってくるが、計画的に進めていきたい。
東	現在、各小中学校の和式トイレを洋式化する計画はあるのか。また、まだ水洗化していないところはあるのか。	古い校舎では和式トイレが多い。最近建設した学校はほぼ洋式である。今の家庭は洋式が大半なので、和式に慣れておらず、トイレを我慢する子どももいるかもしれない。洋式の少ないところを中心に洋式化しており、長期にかけて継続して取組んでいく。なお、全てのトイレで水洗化している。
東	テレビでは、トイレが洋式になったために、子どもたちがしゃがめなくなった、手洗い場の水道が蛇口でないため手が弱っている、などと文化的な機能は何一つ子どもたち身体にとっては良くないと放送していた。昔は、うんてい、すべり台、鉄棒などの遊びの中で身体を鍛えていくというのをやっていた。外で体を使って遊ぶことはとてもいいことだと思う。遊具に恵まれていない学校もあるのではないかと思う。	(ご意見のみ)

【学校適正配置に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
川西	学校適正配置の進捗状況について伺いたい。	適正配置については、地域の理解が得られないと統廃合は非常に厳しいと思っている。しかし、一方で少子化は進んでおり、次の適正配置計画づくりについて進めていかなければならない。子どもたちの教育環境を充実させていくという視点から、しっかり計画づくりに取組み、丁寧な説明を行っていく。
大正	学校適正配置について、前向きに、少しずつでも良いので続けていってほしいと思う。	学校適正配置については、平成18年度から平成27年度までの10年間の適正配置計画を作成し、これまで、第三中学校と第六中学校の統合や豊成小学校の移転などに取組んできた。今後、少子化が進み少人数の学校が増える。そういった中で、クラブ活動が1つの学校ではできない、中学校で教科専任の教諭を配置できないなどの問題が出てくる。そういったことも踏まえながら、来年度からの適正配置の取組みについては、市民の皆さんの意見を開けるように検討委員会を立ち上げ、教育環境を充実させていくために取組んでいく。

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
西帯広	<p>小中学校の適正配置について。規模を大きくすれば適正なのかということに疑問を持っている。先生方が忙しいという話もあるが、一人の先生が受け持つ生徒が少なくなれば、当然、目も行き届くようになる。小中一貫性を意識した地域では、平均学力が良い。西帯広地域は、二中という歴史の流れがあるので、緑園中と統合するのは難しいだろうと思う。住宅の世代交代をすると、二中、西小も生徒はある程度は確保できる。統合して、大きくしなくても、小中一貫を考えたような取組み方をしてくれれば、地域の高齢者と子どもたちが触れあうというすごく大事なことが、モデルとして出来るような気がする。</p>	<p>適正配置や小中一貫の話があった。子どもたちの教育環境をきちんと整えていくことは、大人の責任だと思っている。そうした中で、適正配置については、クラスの規模の問題、中学生だと部活の問題、小学生だと通学の距離の問題など考えるべきことは様々ある。小中一貫については、どういった形で一貫と捉えるのか色々あるが、幼保小中連携のエリア・ファミリー構想も1つであり、帯広で取組んできている。今後、帯広の子どもたちの教育環境については、小中一貫や長寿命化も含めた学校の施設をどうしていくかということも視野に入れながら、適正配置をどのように行うかということで、西帯広地域だけではなく、全市的に、もう一度帯広市の教育環境整備ということで、来年度、皆さんに情報提供をしながら、課題も共有しながら、取組んでいく予定である。</p>

## 【学校給食に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
大正	<p>新しい給食センターができたので、他の自治体にも負けないような、あっと驚くような給食づくりというのを考えていただけたらと思っている。</p>	<p>新しい給食センターでは、できる限り地元の食材を多く使って、より手作り感のあるものを子どもたちに届けたいというように、これからがんばっていく。</p>
大正	<p>給食センターが新しくなったが、今まで出来なかったことが出来るようになったとか、どの程度アレルギーに個別対応しているのか、具体的なことをご教示願いたい。</p>	<p>新しい給食センターでは、医師の診断等に基づいてアレルギー対応を行っている。乳・卵の除去食の提供やアレルギーを持つ児童生徒の情報共有を行い、間違ったものを食べないようにしている。また、メニューでは副食も1品増えているので、ぜひ給食センターで試食いただきご意見をいただければと思う。</p>
西帯広	<p>新しい学校給食センターに見学・試食に行ってきたが、センターでは地場の野菜だとか、アトピーなどについて非常に配慮をしていた。私たちも安心して、美味しくカレーライスを食べさせていただいた。</p>	<p>試食された日はおそらく、川西農協のカレーの日だったのではないかなと思うが、地元産のものを使ったカレーということで、子ども達もペロリとたいらげている。川西や大正の農協青年部の方々に直接学校で、苦労話などをお話しいただき、さまざまな食育の取組みが可能になった。</p>
川西	<p>給食センターが新しくなり学校給食での地元産食材の使用頻度が多くなったと思うが、現時点でどのくらい使っているのかご教示いただきたい。</p>	<p>地場産野菜の導入率の平成31年度目標値を70%としており、平成26年度の実績では63.5%となっている。まず、帯広産を使い、次に十勝産、次に北海道産ということで、安全なものを取り入れていくことで引き続きがんばっていかねばならないと思っている。</p>
大正	<p>今の子どもたちは、濃い味を好んで食べる傾向にあるが、給食では帯広・十勝の食材・素材の味を大事にして進めてほしい。</p>	<p>フードバレーとかちを推進していることもあり帯広市の給食に、熱い期待が寄せられていることを日々感じているところ。今の子どもたちはしょっぱいものや極端に甘いものなど、味の濃いものに慣れてしまっている。そういった中で、給食ではしっかりとした味覚を子どもたちが持てるように意識的に取組んでいかなければいけないと思っている。例えば、「だし」にはぼしやかかつお、昆布などをベースにしており、味噌や醤油も十勝産のものを使うなどしている。</p>
大正	<p>新しい給食センターになってから、給食があまりおいしくないと言っている。色々好き嫌いが子どもにはあると思うが、アンケートを取り、そこでの意見を取り入れてもらいたいと思う。</p>	<p>給食は教育の一環であるため、栄養やカロリーなど色々工夫をしながら、子どもたちにおいしいと思ってもらえるようなものを提供していかなければならないと思っている。ただし、子どもが好きなものだけを提供していくと、偏食なども出てくるので、食育の一環、学校教育の一環として取組んでいる。</p>
大正	<p>「給食の量が足りない」と中学生の子どもが言っている。もしかしたら、給食費を支払わない人がいるからではないか。給食費の回収率はどれくらいかお聞きしたい。また、給食費を児童手当から差し引いて納入できることをもう少し周知徹底した方が良くと思う。</p>	<p>給食費を支払わない人がいるから給食の量を減らすということはない。また、給食費の回収率は約99%近くであり、ほとんどが完納である。給食の量については、中学生だと育ち盛りということもあり、どれだけ食べても足りないという思いもあると思う。だからといって、多くすることは難しいが、人数分を正確に計りながら提供させていただいている。ぜひ、ご理解いただきたい。</p>

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
東	4月に新しい給食センターになってから、給食の麺類がおいしくなくて食べられないと子どもが言う。私も試食したが、十勝の素材を使用しているが、それが活かせてないと感じる。麺類は改善してほしい。	麺類は、大正・川西地区100%の小麦で作り、大変おいしくなったと好評をいただいている。ただ、お子さんの嗜好もあるかもしれないが、自信をもって帯広産100%の小麦で提供させていただいている。

### 【通学路・不審者対策・通学支援に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
川西	清川小学校のスクールバスは、かなり年数が経っているので、来年に更新の検討をしていただきたい。	スクールバスについては、できる限り子どもたちの通学に不便がないよう、また、安全に移動できるようにと考えており、教育委員会全体の予算の中で検討しなければいけないものの1つだと思っている。
川西	畜大の横の道は交通量が多いが、中学生が自転車で通学していることも多い。当初は畜大の横を拡幅する予定であったが、1年前になくなったと聞く。子どもたちが危ないので、十分な歩道の整備等をお願いしたい。	通学路の危険な箇所の点検を帯広警察署、PTA、学校、市の都市建設部なども含めて取組んできている。拡幅はなかなか厳しいところがあるが、学校でも、場合によっては通学路を見直したりするほか、子どもたちへの呼びかけ、車への注意喚起など、様々に取組んでいる。
南	通学路の防犯灯について、点検していただきたい。学童保育で、外が暗くなってから帰宅する子どもがいるが、清流地域の一部ではあまり防犯灯が整備されていないところがある。帯広北高校、工業高校などが建っている地域は、住宅が少ないので、特に防犯灯がない。防犯灯の設置がおそらく町内会管轄だから、住宅の少ないところは少ないのだと思う。通学路については、もっと増やすべきだと思う。また、防犯灯の向きも気になる。数少ない防犯灯なのに、車道に立ち、歩道の方に向かって付いていない場所がある。	学童はもちろんであるが、少年団活動や中学生の部活動などでも、帰りが遅くなり暗い道を帰ることになると思う。防犯灯については管轄が違うが、子どもたちの安全確保ということからも、防犯灯は歩道に向けてほしいなど、お話があったことを関係部署に伝えていく。
南	通学路の除雪の指示は、誰が、いつ、どこで、どういった形で出しているのかお聞きしたい。除雪体制が非常に悪いと感じているが、しっかり除雪をしている地域もあり、地域差が非常にある。	市道は、通学路のみならず市内全体として、市の道路を管轄している部署で、情報収集などをしながら指示を出している。通学路をなるべく優先的に除雪してもらっている。ただし、吹雪などの場合は、市全域を除雪車が走っているの、なかなか全市同じようにくまなく綺麗にすることは難しい面もある。除雪体制をしっかりやらなければならないと思うが、時として、地域の方々にも助けていただければと思う。お話があったことは関係部署に伝えていく。
大正	不審者情報などをメール配信する「帯広市子供安全ネットワーク」システムはとても良いと思う。もっと周知して、各学校の保護者が100%加入できるような体制を取ると良いと思う。	現在、登録率が90%を超えている。安全管理などの役立つ情報を即発信できるので、周りにまだ登録していない方がいれば、是非、登録の声がけをしていただきたい。

### 【子どもの生活習慣に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
川西	最近、子どもにスマホを買い与えている親がいるが、使用する上での約束事を決めなければならないと思う。例えば、何時から何時までは使用してはいけない、学校には持っていないかなど。ひな型があれば良いと思う。	スマホは、一度はまると何時間も使用し生活習慣などに影響が出てきたり、事件、事故に巻き込まれる可能性もあるので、PTAや各学校と危機感を持って取組んでいるが、家庭でも買うときは親子でしっかり約束事を話し合っしてほしいと思う。
大正	子どもがSNSを利用しているが、知っている人とやりとりをしている分には良いが、全然知らない人とどんどん友達になり広がってしまっている。家庭で9時以降の使用を禁止しても、友達から連絡が来ることがあるので、例えば、全市的に9時以降の使用を禁止するなど、全市的な取組みを何か考えていただけないだろうか。	SNSの利用は、いじめや犯罪に繋がる可能性もあるので、どうしていったら良いかということと同じ思いでいる。全市的な規則などは難しいと思うが、家庭と一緒にルールを作ることやっているとはいけなないと思っている。色々な知恵を欲しいと思っている。
東	他の町では、朝ごはんを食べないで学校に行き、1時間目、2時間目に体調が悪くなり、保健室にいく子どもがいると聞くが、帯広ではそういう実態があるのか。	朝ごはんを食べない子もいるかもしれないが、色々な事情があって保健室登校する子どもは各校での人数の差こそあれいる。もし、朝ごはんを食べないで来ている子がいれば、学校も保護者としてしっかりと話していかなければならないと思う。
西帯広	各学校では、「テレビを見ない日」を作って取組んでいるそうだが、試験的なものなのか、これから毎週やるのかなど取組み方は学校によってバラバラである。帯広市としては、どのようにして取組もうとしているのかお聞きしたい。	「テレビを見ない日」は、テレビやゲームがダメということではなくて、帯広・十勝の子どもは、テレビを見ている、あるいはゲームをしている時間が非常に長い、という分析データが出ていることから、少しでも親子でテレビを見ない日にトライして、親子の会話をできるだけしてもらいたい、ということでも十勝全体で、あるいは、道教委全体で、1日限りの取組みが行った。PTAに呼びかけもさせていただき、一斉にやらせていただいた。ただ、それだけでは、不十分のため、PTAと一緒にこれからは家庭に呼びかけていかなければならないと思っている。ただ、毎週実施するとすると、家庭の生活の問題になってしまうので、家庭の教育のあり方もあることからできることではないと思っているが、何回かの取組みの中で意識を持ってもらいたいということで取組んでいる。

**【生涯学習に関すること】**

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
東	市のバスを生涯学習等で使う場合、いろいろな規制があり使いにくい。検討してもらえないのか。	市バスについては、バスの台数に比べ、利用したい方の頻度が高く、相当早めに申し込まなければならないのが現状である。教育委員会のバスではないので、なかなか前向きな答えが出せないが、できる限り要望に沿った形で使っていただけるように教育委員会でも事前調査を行っていききたいと思う。

**【スポーツに関すること】**

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
川西	フードバレーとかちマラソンのように、子どもたちが楽しんで参加できて、成長を見ることができるようイベントをこれからも開催してほしい。	フードバレーとかちマラソンでは、子どもたちが毎年、自己目標を持ち楽しく走ってもらえるような大会に成長していくように、引き続きがんばっていききたいと思う。
大正	フードバレーとかちマラソンに参加するためには、どのように申込みをすれば良いのか。	インターネットで簡単に申し込むことができる。また、申込書は、お電話いただければ送付することもできる。毎年9月末までの申込期限となっているので、7月中旬頃から申し込みを開始する。新聞や広報おびひろに注目いただければと思う。
東	新総合体育館についてだが、過去にも体育施設が出来上がってから苦情が出ている話をよく聞くので、今回も50億円という金額が先に走ってしまい、予算はそれ止まりと言われているが、50億円が先にありきではなく、しっかりしたものを造ってほしいと思う。	新総合体育館の建設については、50億円という数字が一人歩きしているかもしれないが、アクセスやバリアフリー化、高齢者・子どもたちの利便性、将来の人口減などもしっかり見定めながら、いくつかの視点を持ち方針を作っている。予算の厳しい中でも、予算が生きるいい形で新体育館建設に向けてやっていけるといいと考えている。
東	日本クラブユースサッカー選手権大会などの会場として東小学校の裏の十勝川河川敷が使われるが、出場選手以外の生徒が東小学校のトイレの前までクーラーボックスを持って水を汲みに来る。こういう大会誘致をしているのだから、せめて橋を渡らなくても水をくめるような配慮を考えなければ、帯広は水のことも考えないで開催をするのかとなる。また、河川敷のトイレは、11月1日からトイレが使用できなくなる。冬場に保育所の子どもたちが遊んでいることがあるので、年中トイレを使える状態にしてあげられたらと思う。	河川敷は、普段からサッカーだけではなく色々なスポーツで利用されている。河川敷に半永久的なものを設置して良いかは河川管理者側との協議が必要であるが、水のみ場やトイレの設置は厳しいというのが現実である。
東	体力づくりでは少年団は大事な要素だと思うが、現状では学校とは関係ないとか、以前に比べて問題がある状況である。学校・行政が悪いということではなく、どうしたらいいか研究課題として、育成に向けて検討してほしい。	少年団の育成について、少子化の中で少年団が結成できない、指導者がいない、町村に比べて帯広市は学校の先生で少年団に関わる人数や時間が少ないなどの声をいろいろな方からいただく。学校の先生が少年団に兼務的に携わることが不可能だが、学校も先生も、できるだけ少年団の育成には協力し、グラウンドなどの利活用には協力したいと思っている。

**【図書館に関すること】**

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
東	体育祭など土・日に行事があると、月・火が振替休日となる。しかし、月曜日は図書館なども休みで、子どもたちの行く場所がない。特に学校の長期の休み中に、図書館が本の整理日のため5日間連続で休みになると困る。なぜ学校と図書館は相談しないのか疑問である。学校と図書館の休みが重ならないよう来年ぜひお願いしたい。	図書館等の休日と学校行事の翌日の休日が重なるという話だが、図書館の休館日は議会の議決を経て条例で決まっていることなどから、学校行事の関係で月曜を開館にすることは難しいことをご理解いただきたい。また、本の整理については、図書館にとって生命線であるためしっかり確保しながらせざるを得ない。子どもたちを含め市民に迷惑をかけないように、年末年始では、借りられる冊数を増やすなど工夫を重ねている。

**【学童に関すること】**

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
東	学童保育で子どもが遊んでいる場所は狭すぎないか。学校を使うことはできないのか。	学童保育は、教育委員会ではなく市長部局で行っている。少子化の中でも学童保育を求めている子どもたちはどんどん増えている。福祉センターなどにも学童保育所はあるが、今、6年生まで学童に入れるということから場所がとれなくなっている。小学校の利活用を含め学校と協議して、教育を優先としながらも、同じ学校の子どもたちの放課後保育のため、学校の理解を得ながら、保育スペース、おやつを作る場所の確保などの保育体制を整え学童保育に取り組んでいる。お話にあったスペースの問題については担当部署に伝えたいと思う。

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
西帯広	<p>児童保育センターの関係で、学校の空き教室を利用する形で取組むなど、教育委員会で検討し工夫しているとかっているが、学校の施設が空いているからといって使用を認めるのでは学校側に負担がかかることも聞いたことがある。</p> <p>また、児童保育センターの民間委託を請け負っている業者の職員によると、保育士の資格を持つ人間はこの場所で一人しかいないと言っていた。保育士資格を有して仕事をするのが一般的だと思う。児童保育センターとは言え、子どもたちには違いがあるのだから、ただ人がいれば良い、場所があれば良いということではないと感じている。</p> <p>学校と児童保育センターとの連携ということもあると思うが、施設の受け入れや、子どもに対する対応の形、保育士資格という言葉で片づけることはできないかもしれないが、どのように考えているのかお聞きしたい。</p>	<p>コミセンや福祉センターの中に学童がたくさんあるが、耐震性の問題等から、学校に学童が入ってきているというケースがある。また、学童保育が6年生まで拡大することについて、帯広は、受け入れる体制で方向性を出しているの、耐震性がきちんと満たされている学校の施設を使うということも考えている。そういった中で、空いていればいいというわけではなくて、学校はあくまでも教育の場なので、教育に支障のないことを最優先して、学童に提供できる場所を、教育委員会と学童を所管していることも未来部の職員、学校の校長・教頭も含めて、話し合っている。スペースの確保などは、学校の協力と理解がなければ難しいことである。</p> <p>また、学童保育は指定管理者制度になっているので、ほとんどのところに保育士が入っていると思う。中には、時間的に短時間で来る人とか、夏休み冬休みには宿題と一緒にしたり、おやつ作りと一緒にしたり、おもしろい体を動かすとか、色んな活動を学童ではしてもらっているの、多分、今もそういった形で、取組んできていると思う。</p>
西帯広	<p>学童でも学習の時間を取り入れられないだろうか。縦割り行政を乗り越えた遊びながら学力が付くような取組みも必要だと思う。</p>	<p>教育そのものは学童では難しいと思う。学童は、共稼ぎの家庭の子どもを放課後に責任を持ってお預かりするということが、おやつを食べたり、先生と一緒にゲームをしたり、読書をしたりする場所なので、そこで学習支援という角度からは難しい。しかし、低学年であれば夏休みの宿題も見せてあげるとか、そういった協力はできるのではないかなと思う。</p>

### 【その他】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
大正	<p>小学生の親戚の話だが、クラスに給食費を支払えないから給食を食べないという友達がいる。その子どもは親の顔を伺いながらびくびくして学校に通っていたのだと思う。子どもの教育も大切だが、その前に大人としての常識、行動、そういうものを考え直すべきかと思う。</p>	<p>先生は適切に対応しようと努力を一生懸命していると思う。しかし、それが十分に本人や家族に届かない、あるいは、家族もそのことを十分受け止められないということがある。今回、お話ししていただいたことで、そのような子どもがいた場合、どのように接したらよいかなどについて考えさせられた。</p>
大正	<p>高校生の通学について、大正地区から通う場合、不便に感じることもある。朝はスクールバスがあるが、帰りはない。また、本数も少ない。それによって、部活動を諦めたり、高校の選択を考えたりすることもあるかと思う。高校通学のためのスクールバスの充実を帯広市で考えていただければと思う。</p>	<p>高校のバス通学に関する路線の確保については、このようなご意見があつたことを担当部署にしっかりと伝えていきたいと思う。</p>
大正	<p>高校生の通学について、交通費が非常にかかる。朝はスクールバスがあるが、帰りの際にも、夕方1便、部活対応のため7時以降にも1便スクールバスを検討していただけたら、進学の選択肢が広がる。交通費の補助についても考えて欲しい。</p>	<p>高校生の通学のためにかかる交通費は、大きな課題であると認識している。ただ、帯広市全体として、高校生の足の確保は、なかなか難しいところがあるので、このような話があつたことは持ち帰りたいと思う。</p>
大正	<p>公立高校の間口減への対応について伺いたい。</p>	<p>十勝においても中学を卒業していく子どもが激減している。そういった中で、北海道教育委員会によって、公立高校の教育環境をどのように充実していくかについて、各地域で説明されながらきている。帯広市教育委員会では、間口減に関して北海道教育委員会や北海道知事に意見をしっかりと申し入れていく。</p>

### 【教育委員会(教育懇談会含む)に関すること】

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
西帯広	<p>現在の教育委員会制度が変わるが、帯広では、どういう方向付けをするのか、伺いたい。</p>	<p>子どもの色々な事件があつた時に、教育委員会には、委員長と教育長があり、どちらが責任者かわかりにくい、ということがきっかけとなり、教育委員会制度について法改正があつた。教育委員会そのものが変わったというものではないが、変わった例として、教育長の選任の仕方である。今までは、教育委員5人による教育委員会会議の中で、教育長が任命されていた。今後は、教育長という職は、市長が直接議会の人事案件の事案を出して、議会の議決を得て決定されることになる。また、教育委員会が市長部局とは独立した執行機関だということでは、これまでと変わってはいないが、今日的課題に対して市長部局との連携なしでは対応が難しい時代になっているので、市長が主催し、教育委員5人と様々な話をする総合教育会議を開催することになった。</p>

会場	参加者からの「ご質問・ご意見」	教育委員会からの「回答等」
東	冒頭で今年度の教育委員会の事業内容について説明を受けたが、今の時期ではなく年度初めに、事業内容を説明する方が望ましいと思う。 また、他会場で出された共通の話題や意見について、話していただくと、帯広市の子どものための懇談会として生きてくるのではないだろうか。	教育懇談会の開催時期をこの時期にしているのは、来年の予算編成に生かしていけたらということ、地域によっては農作業が忙しい時期があり、この時期になったという理由がある。 他会場で出された共通の話題や意見について教えてほしいという声もあったので、来年度からの教育懇談会の進め方については工夫してみたいと思う。
大正	教育懇談会のチラシについてだが、昨年出された意見などを掲載すると良いと思う。	検討していきたい。
東	配布資料の記述について、もう少し具体的な内容を書いてほしい。例えば、地元産食材であれば、今年度はどれくらい買っているのか、将来的にどうしていくのかなど。	資料に記載している事業は、数多くある事業のほんの一部である。皆さんに伝えるためにも、どこまで具体的に記述するかなど工夫してみたいと思う。今回いろいろなご意見をいただいているので、なるべくコンパクトでわかりやすく工夫したい。
南	教育懇談会に、子どもの親世代が来ていないということが残念である。来ないということは、魅力がないということである。その場に行こうという思いが、何かのきっかけで広がって多くの人が集まると、教育的なことについて地域からも積み重ねていけるのではないかと思う。	全ての保護者には教育懇談会の案内を出しているが、なかなか忙しいこともあったり、言いづらいこともあるのだと思う。教育懇談会は色々な声を聞ける1つの機会ではあるが、日常的にも、直接教育委員会に、あるいは学校や町内会を通して教育やまちづくりについて、声を届けていただければと思っている。
大正	教育懇談会で出された意見はどのように公表されるのかお聞きしたい。	いただいたご意見等について、コミセンなどの公共施設や市のホームページで公開し、できる限り多くの皆さんの目に触れるような形で届けていきたいと思っている。